

2023年度 熊本ライトハウスのぞみホーム 事業報告

1 総括

2023年度は新型コロナウイルス感染症のリスクレベルが5類に下がったことにより、少しずつではあるがコロナ禍前の日常生活に戻りつつある状態になってきている。特に3年間にわたり中止をしていたふれあいバザー規模を縮小ながらも開催し、地域の方々にも大いに喜ばれた。その他の行事等も徐々に活動再開しているが、感染の脅威が完全になく無くなったわけではなく、今後もこまめな対策を奨励し、細心の注意を払って対応したい。

利用者のニーズにあった支援活動については、入所者を障害の程度にあわせて3つのグループにあわせて活動を行い、検討課題に応じたグループ会議を月1回以上開催することで、情報の共有を行った。また、利用者のニーズに出来るだけ対応することに努め、利用者主体の活動を行うよう心掛けた。

職場環境の整理については、働きやすい職場環境を醸成することに努め、職員に対する施設長面談を年2回実施し、職員の声を拾い上げるよう努めた。また、業務内容の見直しも積極的に行い、労働時間管理を適正に行うように努力した。職員の人員不足は否めないが、新人職員の育成に重きを置き、研修等の充実を図った。実習生も積極的に受け入れ、実習から当施設への就職を希望し、成約したことは成果であった。

今後の障害者福祉の国の動向や報酬改定について全職員が把握し、方向性を検討するため、現状の経営状況の周知をリーダー会等で積極的に議論し、課題の検討を行うことが出来た。

2 主な取組の実施状況と評価

(1) 組織力を高め、健全な職員チームを育成する

- 入所者の障がいの程度（ダウン症、高齢者等）に合わせてグループを3つに分け、検討課題に応じたグループ会議を月に1回以上開催し、利用者支援強化の具体的取組み、報告、事例検討等職員全体で情報を共有した。
- アフターコロナの状況下において、利用者のニーズに対応するため、各行事への参加、外出、旅行計画等を奨励し、実行することが出来た。
- 個々の職員のスキルアップを目指し、研修への積極参加を奨励したが、サポーターズカレッジの利用については不十分であった。

目 標	実績	評価
①グループ会議を月1回以上開催し、利用者の情報の共有を行う ②利用者ニーズへの対応 ③各種研修への参加、サポーターズカレッジの利用促進	①グループ会議を月1回以上開催。情報の共有も出来た ②行事への参加、外出、旅行計画など積極的に行った ③研修への参加は積極的に取り組んだが、サポーターズカレッジの利用頻度が低かった。	3

1 達成できなかった 2 あまり達成できなかった 3 ある程度達成できた
4 概ね達成できた 5 達成できた (以下同)

(2)働きやすい職場環境の整備、組織力の強化

- 全体会議、各種会議等で基本理念の共有、実践を職員全体で行う。
- 年2回の施設長面談を行い、メンタルヘルスケアや職場環境の改善に努めた。
- 休暇取得の促進を行った。特に男性職員の育休取得も実現した。4連休取得促進を行ったが、人員不足もあり、実績は上がらなかった。
- 労働時間管理については、全体会議等で意識づけをおこなったことで改善できた。

目 標	実績	評価
①職員全体で基本理念の共有、実践を行う ②年2回の施設長面談を行う ③休暇取得の促進を行う ④適正な労働時間管理を行う	①毎朝のミーティングや全体会議等を通して、基本理念の共有を行った ②職員に対する面談を行った ③年休の取得は積極的に行った。また、男性の育休対応も行った ④時間外労働に対する考え方を会議等で発信し、対応した	5

(3)持続的な経営の安定化を図る

- 職員会議、リーダー会議等各種会議で財務状況確認を行い、全職員が現状認識できるよう努めた。
- 災害時BCP計画をしたが、全職員への周知までは至っていない。
- 5年後を見据えた事業展開について、今後の国の動向等確認し、リーダー会等で話し合った。

目 標	実績	評価
①全職員が財務状況を認識する ②災害時BCPの作成をする ③中長期計画作成のための勉強会等を開催する	①会議等での周知を行ったが、全員が理解するまでには至っていない ②災害時BCP計画を作成した ③各種会議等で、今後の動向等について発信を行った	4

(4)地域社会、関係機関との交流を深める

- ふれあいランチを今年度も継続して開催することが出来た。
- 地域文化祭への利用者作品等出品を行うなど、積極的に地域活動へ参加した。
- 実習生を積極的に受け入れ職員採用においては、実習からの採用に至った。

目 標	実績	評価
①ふれあいランチを月1回開催する ②地域行事へ積極的に参加する ③実習生の積極的受け入れを行う	①ふれあいランチを月1回開催した ②地域文化祭への参加等地域行事には積極的に参加した ③実習から当施設への就職を希望、採用に至った	5

3 サービスの利用状況

○ 生活介護・施設入所支援の利用率

- ・ 入所者については、高齢化が進んでおり、その特性からも持病の悪化による通院や死亡するケースが出てきており、2023年度は入所者の3名の方が亡くなった。今後はなく、慎重に対応し、利用率の維持と新規入所者を今後受けて準備を行うようにする。また、待機者についても常に状況を把握しながら、部屋の空き状況は減少するように対応する。

生活介護の利用率

(定員 40人)

	2021年度	2022年度	2023年度
開所日数	270日	268日	270日
生活介護者 (延べ人数)	10,635人	10,680人	10,398人
利用率	98.8%	99.6%	96.3%

施設入所支援の利用率

(定員 40人)

	2021年度	2022年度	2023年度
開所日数	365日	365日	366日
入所者(延べ人数)	14,395人	14,518人	14,142人
利用率	98.5%	99.4%	96.6%

利用者月別入院者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	1	3	3	2	1	0	0	0	1	1	1	1	11
延数	26	31	53	49	26	0	0	0	7	4	3	2	201

4 苦情対応の状況

苦情対応

利用者からの苦情 (内訳)	19件
● 職員に対しての苦情	8件
● 利用者に対しての苦情	9件
● その他の苦情	2件

主な内容

○ 不満発言

排泄後のふき取りを自身でするように職員から言われ「嫌だった」「むかついた」「いらなかった」との発言があった。また排泄記録の不記載や乱雑な就寝準備について不満を吐露された。

○障害特性の非理解

新任職員への苦情であり、視覚障害だが墨字を読むように言われた。不快感を受けた。理解不足によるもので、本人に対して謝罪を行った。

○不適席発言

職員との言葉遊びの発展から、「一緒に外出を」との要望を伝達された際、「うるさいから一緒には行かない」と返答。不快感及び職員に対し苦情。後日謝罪し、和解した。

5 主な行事の実施状況

月別行事

5月	園外外出
7月	七夕会
8月	キッチンカー
10月	熊本ライトハウス70周年のぞみホーム30周年祝賀会 ハロウィン
11月	ふれあいバザー
12月	クリスマス会 餅つき
1月	日帰り旅行
2月	節分 感謝会
3月	お疲れ様会

6 研修の実施状況

研修内容

4月	法人新任研修
	園内新任研修
6月	障がい者施設職員研修会 利用者主体の支援に向けて
7月	内部衛生講話
	強度行動障害養成者研修
	九州知障職員研修
	法人職員全体研修会 共に生きる
8月	内部接遇研修
	強度行動障害支援養成者実践研修
9月	内部接遇研修
	意思決定支援と虐待防止に関する研修会
10月	内部接遇研修
	法人アンガーマネジメント研修
	内部 AED 研修
11月	リスクマネジャー研修
	法人アンガーマネジメント研修
	法人共に生きる研修

1月	障がい者支援部会全国大会九州地区沖縄大会
	サビ児管相談従事者専門別研修 意思決定支援応用編
2月	サビ児管全体研修
	内部ヨガ体験
	新型コロナ感染防止対策研修
3月	内部グリーンケア研修

7 施設整備等の状況

100万円以上で主なもの

○防犯カメラ設置 2,475,000円

8 その他

○ ヒヤリハット・インシデントレポート・事故報告

●ヒヤリハット 137件

●インシデントレポート 6件

・転倒2件 ・受傷1件 ・粗暴1件 ・衝突1件 ・破損1件

●事故報告 ・骨折1件 ・不適切対応1件